



志木中だより



4月号 平成29年4月10日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

“活気と豊かさ”を目指して 校長 飯田 寛

桜の季節は別れと出会いの季節です。そして、全てのスタートの季節です。志木中も新たなスタッフで平成29年度がスタートしました。私も3年目に入ります。この2年間の経験を生かし、形ある志木中文化の創造に努めたいと思います。昨年度開校70周年を迎え、今年度は次の10年、80周年に向けての第一歩を力強く踏み出したいと思います。保護者や地域の皆様には、変わらぬご理解・ご支援を賜りたくお願い申し上げます。



「学校」とは本来「木」と「交」わって「学」ぶ所という意味だそうです。だから、自然と交わる中で様々な学びを獲得していくことが本来大切にされたのでしょう。今は、本来の意味が薄れ、学校の姿は随分と様変わりしましたが、「学び」の本質は変わらないと私は思っております。「学ぶ」の語源は「真似ぶ」と言われるとおり、しっかり見聞きし真似をすることから始まります。ものの原理原則をしっかりと身につけながら、かつ自分自身の思考力や判断力を働かせ、自分をよりよく表現する力を養ってほしいと願っています。志木中生がよりアクティブに学び、活気ある学び舎となるよう取り組んでいきます。

今の子供達の人間関係上のトラブルをみると、そのほとんどが意志疎通の不足による部分が多いようです。そして、意志の疎通に欠かせないのが「ことば」です。実際の生活という生きた文脈の中で、いかに言葉を使い、操作し、調整するかは、その人自身の「生きる力」の原点です。言葉が豊かな人は自ずと心も豊かです。幸い、日本にはすぐれた日本語と言語文化があります。今年度は、子供の言葉や心に直接語りかけ、よりよく耕していくような働きかけをしていきたいと思っています。



志木中生の挨拶はピカイチです。志木中生は物事を素直に理解します。そんな素晴らしい志木中生にさらに磨きをかける一年にしていきたいと思います。本年度もどうぞよろしく願いいたします。



☆今年も柳瀬川畔の桜が満開になりました。



志木中だより



5月号 平成29年5月 1日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

“心の教育”で何を教えるか 校長 飯田 寛

毎朝、秋ヶ瀬橋を渡って出勤します。4月から5月の秋ヶ瀬さくらそう公園の季節の移り変わりは、まさしく色彩の変化そのものです。菜の花の黄、桜の淡いピンクの饗宴の後には、ひたすら緑が濃くなっていきます。その緑のグラデーションの美しさは何とも言えません。出勤時の渋滞のストレスをしばし忘れさせてくれるひとときです。



今から30年も前になりますが、平成元年度版学習指導要領の告示に伴い「心の教育」が大きく取り上げられました。変化の激しい社会をよりよく豊かに生きるためのあり方が課題となったのです。その中身は、物事に感動できる豊かな心や他人の気持ちがわかる思いやり、困難に立ち向かうたくましさ等々、現在の「生きる力」の原型とも受け取れるものです。それに伴い「新しい学力観」という言葉をどこでも誰もが話題にし、21世紀に向けてのこの国の教育が、その後大きく変化していった時代でした。私は、中学校での実践を経た後、再び小学校に戻り、初めての1年生を担当していました。小さい子供達を相手に悪戦苦闘しながらも、楽しい汗を流しつつ「しつけ」について真剣に考える日々でした。

ところで、皆さんは「心の教育」と聞いて、何をどう教えたらよいとお考えでしょうか。人の「心」はとても複雑で、生きていく上で大切なことは数限りないと思うし、様々な考えがあっという間と変わります。いささか乱暴なやり方ですが、あえて単純化して提示するならば、私は次のように「心の教育」をとらえています。



- ◎「心の教育」の基盤は家庭教育にあること。「おはよう」の挨拶に始まり「ありがとう」「ごめんなさい」といった人としての基本を徹底して教えたい。
 - ◎「がまん・忍耐」を徹底して訓練する。耐性は訓練しないと脳皮質が覚えてくれない。忍耐は「生き抜く力」の源！
 - ◎「感謝」の気持ちを様々な体験を通して教える。その土台は、「素直」と「謙虚」であることを親や教師自身が実践して子供に示す。これは教師の課題でもある。
 - ◎自然や美しいもの（芸術や文学など）への感動を繰り返し体験させること。そのための自然体験・感動体験を！ゲームやスマホでは、感動は育たない。
- 学校は、常に家庭での教育・しつけの成果を土台として集団のルールを学ぶ場です。お互い手を取り合い進んでいきましょう。



志木中だより



6月号 平成29年6月 1日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

心配するな。何とかなる！

校長 飯田 寛

新年度が始まり早2か月がたとうとしています。4月のインフルエンザによる学級閉鎖には学校としても驚きましたが、5月の連休後にはそれも落ち着き、何とか順調に教育活動が進められています。1学期中盤戦、これから行事や大会が入ってきますが、生徒には一つ一つ目的を持ち、有意義なものとなるよう取り組んでほしいと思っております。



臨済宗の高僧である一休禅師が臨終の際に弟子たちを集め「私亡き後、もし困ったことがおきたらこれを開きなさい。」と一通の文を託しました。

何年か経って寺に大変な問題が持ち上がりました。弟子たちは「そうだ、お師匠さんの手紙を開けてみよう。」ということになり一休さんが残した文を開けてみました。そこには次のような一文が書き記されていました。

心配するな 大丈夫 何とかなる

それを見た弟子たちは気持ちが軽くなり、問題の解決に余裕をもって当たれたということです。何とも軽妙・洒脱な話ではありませんか。さすが頓知の達人一休さんですね。人間や人生というものを見抜いていたんだと思います。

私たちを取り巻く現代社会では、四方八方から人に重圧をかける傾向が年々強まっています。必要以上に人を緊張させ、「こうでなければならない。」という無言の圧力を感じます。心を病む現代人が増えているのも頷けます。そして、学校や教育行政も決して例外ではないと思っています。



明治以来の日本の学校は、「頑張れ」「努力が大事」「夢を追いかけろ」「なりたい自分になれ」という掛け声のもと、常に子供の尻を叩き、激励してきました。そこに働く原理は「自力」の考え方です。しかし、結果が伴わない、失敗したといった結果に対して、今の教育はどんな手段をもっているのでしょうか。「努力が足りなかった。」「能力がない。」「やり方が悪い」・・・そんな言葉が、子供を苦しめ、傷つけている場合もあるかもしれません。

ではどうすればよいか。今それを言い尽すことはできませんが、一つにはもっと子供に「大丈夫、何とかなるよ。」という言葉をかけてあげたいと思います。もっと大きな視野で子供を見、「生きる意味」を見出せるような働きかけをしたいのです。これが「他力」の思想です。今こそ「他力」という海の中での教育が必要な時代です。



志木中だより



7月号 平成29年7月 3日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

自分のことばで“真実”を語りたい 校長 飯田 寛

長いと思っていた1学期も早7月、梅雨明けはまだ先ながらも、夏の気配が濃厚となってきました。たくさんあった行事も一つ一つ成果を得て、生徒たちをよりよく成長させています。夏休みを前にして、1学期のまとめをしっかりとやり、有意義な夏休みにしてもらいたいと願っています。



本校では、生徒に対して常に「NO 原稿で、聞き手を見ながら話しなさい。」と言っています。「話す」際には、あくまでも原稿を「読む」のではなく、聞き手の反応を見ながら話し方を調整することが、いわゆる「話す力」なのです。これは、子供たちが社会に出た時に即役立つ「生きた力」となるはずです。

ですから、私自身ももちろんNO原稿で、子供の反応を見ながら「語る」よう心がけています。そして、何よりも大切なことは、自分のことばで、実感に基づいた話をするようにしています。自分が本当に感じたり感動したり、考えたりしたことではないと、決して相手には伝わらないと思うからです。それを私は“真実のことば”と呼んでいます。他人の借り物ではない、自分自身の奥底から出たことを、自分のことばで語るとき、人と人はつながると思います。

近年、携帯やスマホ等のいわゆる SNS による不誠実なことばが横行し、それによって多くの方が被害にあう状況が深刻化しています。決して自分の心や頭で感じ考えたことではない、中身のないことばが飛び交っています。これも私がよく言う社会病理の一つです。

また、人からの伝え聞きを受け、それを自分で加工した上で、あたかも自分が見聞きしたように話すということが世間にはよくあります。本当に無責任極まりない行為としか言いようがありません。自分の目や耳や心でしっかりとものを見、判断した上での真実の言葉ならいざ知らず、勝手な思い込みで無責任な言葉を発する、そのことで知らず知らずのうちに人を傷つけ、名誉を棄損するとしたらこれは立派な罪になると思うのですがいかがでしょうか。

私たちが憎むべき「いじめ」もそれと同様です。冷たく無責任な心と言葉と姿勢が、他者に向かうとき、いじめがおきます。志木中は、そのような不誠実な言葉と心を排除し、いつでもどこでも「真実で誠実な、温かい言葉」溢れる学校でありたいといつも願い、生徒にも働きかけをしています。学校とご家庭とが常に同一步調で歩んでいけるようお互い努力しましょう。